

令和3年12月

普及活動報告

特産小豆の生産振興を目指して～亀岡市西部地区赤小豆品評会が開催～

(亀岡市：6日)



厳正に審査

小豆の生産振興を目的として、亀岡市西部地区農業振興協議会の主催による品評会が開催されました。

今年度は、天候が不順で栽培が難しく、やや小粒で収量が少ない傾向にありました。また、生産者の高齢化もあり、出展数は11点とかなり減少しました。そのような中、厳選された品が出展され、特別賞として手収穫の部上位4点、機械収穫の部上位1点を選出しました。

場 所 JA京都亀岡西部支店

出席者数 11名

亀岡市の小豆栽培面積66.9ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年12月

普及活動報告

「農山漁村伝承技能登録証」を交付 ～京都丹波で新たに3名に～

(13日)



登録証を手交

南丹地域の農山村で磨かれてきた伝統的な生産・生活技能を保持する方に登録証を交付するとともに、その技能の紹介と伝承への思いなどについて意見交換を行いました。

「亀岡行事食の伝承」「鯖のなれ寿司づくり」「京かんざしの高品質栽培技術」の技能保持者に、南丹広域振興局長が登録証を手交し、それぞれの方から技能を紹介いただき、交流を深めました。

交流会では、技能に携わったきっかけや、創意工夫の数々、苦労話など、技能にまつわるエピソードが披露されました。今後も普及センターは、農山漁村技能の伝承活動を支援します。

場 所 亀岡総合庁舎

出席者数 13名

管内の技能登録者数は平成9年以降合計168名

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年12月

普及活動報告

良質な製品の継続出荷を目指して
～京かんざし栽培ハウスを巡回～
(南丹市・京丹波町：20・21日)



ハウスを巡回し栽培管理等を確認

普及センターでは関係機関と連携し、市場出荷が始まる8月以降、京かんざしの栽培ハウスを定期的に巡回して、は種日と草丈をチェックするとともに、収穫時期と出荷調製方法について助言を行っています。

本年は10月以降、市場の需要量も回復し、安定した価格で取引されています。普及センターは、共販出荷終了（令和4年2月末）まで、引き続き定期巡回により農家を支援していきます。

場 所 南丹市、京丹波町

出席者数 20日：8名

21日：5名

令和3年度栽培農家17戸

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年12月

普及活動報告

今年の出荷を振り返る
～賀茂なす部会が反省会を開催～
(亀岡市：23日)



普及センターから今年のカ培状況を説明

6月～11月の賀茂なす出荷期間が終了し、今年の出荷を振り返る栽培反省会が開催されました。各関係機関から情勢報告等が行われ、普及センターからは今年度の気象データや巡回結果を基に、来年度の作付けに向けた病虫害防除などについて説明しました。

今年はコロナ禍の影響により京野菜の単価が例年より下がる中、月2回の目合わせ会や巡回指導により栽培管理を徹底された結果、秀品率は昨年を上回り、また優品、良品の販売にも力を入れられたところ、単価安を前年比88%まで抑えられました。

普及センターは今後も、関係機関とともに賀茂なすの安定生産に向け支援していきます。

場 所 JA京都亀岡中部支店
出席者数 22名

令和3年度JA京都亀岡支部賀茂なす部会員：18名
秀品出荷数：4,646ケース（前年3,791ケース）

京都府南丹農業改良普及センター